

あいち農産物生産流通レポート

2022年12月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 2022あいち食育いきいきシンポジウム 「健康な歯とバランスのとれた栄養は『幸せな食事』の基本」を開催しました	(食育消費流通課) 1
・ 令和4年度第61回農林水産祭「実りのフェスティバル」開催！	(東京事務所) 2
◎ 東日本情報	
・ 愛知県産秋冬野菜京浜地区販売会議が開催されました	(東京事務所) 4
◎ 西日本情報	
・ 愛知生まれのカンキツ「夕焼け姫」のブランド化について	(園芸農産課) 6
◎ フラワーページ	
・ アルメーレ国際園芸博覧会におけるあいちの花のPRについて	(園芸農産課) 7
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の12月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の12月の見通し(県内市場)	22

※今月「地域トピックス」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

「健康な歯とバランスのとれた栄養は『幸せな食事』の基本」 を開催しました

食育消費流通課

2022年6月に開催した「第17回食育推進全国大会 in あいち」では、企業と学生、団体と行政など、さまざまな連携が生まれました。その連携の一つが、愛知県歯科医師会と愛知県栄養士会の共催で行われたシンポジウムです。

今回は、そのシンポジウムを基に、参加者がより身近に感じられる、分かりやすい内容にしたシンポジウムを、11月18日（金）に名古屋市内及びオンラインで開催しました。

当日は、食育に関心の高い県民、保育園や学校で給食に携わる栄養関係者、学生、行政関係者等58名に参加いただきました。



シンポジウム会場の様子

1 講演1「噛むから始める歯ッピーライフ」

愛知県歯科医師会食育推進委員会の新美啓子委員長からは、噛むことが口腔機能に及ぼす影響などについてお話をいただきました。講演の中で、飲み込むときに自分の舌がどこにあるかを体感させるなどし、参加者が自らのこととして考えるきっかけとなりました。

また、歯科医院での診察の中で感じる具体的な話や対策を聞かせていただき、子どもをもつ参加者や保育、教育関係者は、食事をするときの姿勢や調理方法など、非常に参考になったようでした。

2 講演2「ライフステージの視点で歯の健康を考える」

愛知県栄養士会の上原正子副会長からは、世代に応じた歯の健康について、栄養の視点を交えてご講演いただきました。

講演の中で、栄養を十分に摂取するためにはしっかり噛むことが重要である、ということがデータで詳しく示され、特に、生活習慣病の予防には「何を食べる」という「食の選択」だけではなく、「よく噛んで食べる」ことが重要であると、歯科と栄養の観点から提言され、参加者は話に関心していました。



講師の先生によるトークセッション

その後のトークセッションと質疑応答では、講師の先生と参加者との間で活発にやりとりが行われ、会場全体でテーマについて考える充実した時間となりました。

参加者からは、「口腔ケアの重要性について再認識できた」、「食事中の姿勢と舌の位置をほとんど意識してこなかった。これから気を付けたい」、「噛むことがこんなに重要だとは思わなかった」などの声が寄せられ、意識の改善が見られました。

このシンポジウムをきっかけに、参加者が今まで以上に「幸せな食事」を楽しめるよう期待します。

また、シンポジウムの様子は、食育ネットあいち内でアーカイブ配信していますので、ぜひご覧ください。

令和4年度第61回農林水産祭「実りのフェスティバル」開催！

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2022年11月11（金）、12日（土）に池袋にあるサンシャインシティで第61回農林水産祭「実りのフェスティバル」（主催：農林水産省、公益財団法人日本農林漁業振興会）が開催されました。

1 実りのフェスティバルとは

農林水産業と食に対する理解の増進と農林水産物の消費拡大などに向けて開催されており、都道府県や農林水産関係団体による協力のもと、農産物の販売や試飲・試食が行われました。他にも、都道府県技術・経営普及展での展示や、政府特別展示による紹介が行われ、11日には秋篠宮ご夫妻も訪れ、各展示を視察されました。体験・ふれあいではポニーの体験乗馬や、くまモンなどのゆるキャラが登場し、多くの来場者で賑わい、盛況に開催されました。



出展の様子



都道府県技術・経営普及展の様子

2 愛知県の出展の様子

愛知県は2日間に渡り農産物の販売、試飲・試食を行い、愛知県産農産物のPRを行いました。農産物としてトマト類、キャベツ、フキ、次郎柿、ギンナン、シクラメンなどを販売しました。ギンナンのすくいどり販売では、「粒が大きい」と来場者から好評でした。

都道府県技術・経営普及展では、水産試験場の「大きくて柔らかくておいしい」雌ウナギの生産技術について紹介しました。



ギンナンのすくいどり、次郎柿の販売の様子



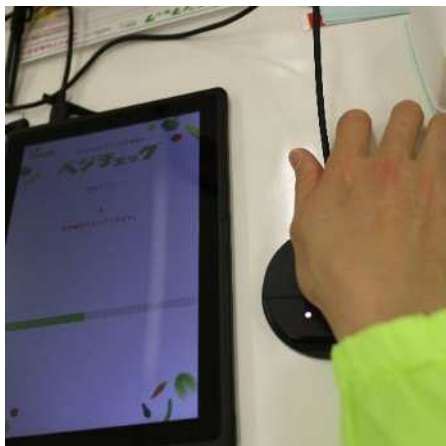
愛知県のパネル展示の様子

3 公益財団法人中央果実協会の展示の様子

当協会では、果物の消費拡大などを目的に「毎日くだもの200グラム運動」の推進を行っています。特に10～40代の果物消費量は100gにも満たないため、若い世代をターゲットに消費してもらえるよう、データに基づく健康効果のPRだけではなく、様々なアプローチを実施しています。その一つとして、展示ブースでは、カロテノイドなどは、野菜だけでなく果物にも含まれていることや、野菜の摂取が少ない人は果物の摂取も少ない傾向があることから、野菜摂取量を見える化（数値化）することができる測定装置を用いて野菜と合わせて果物の摂取を提案していました。



年代別果物摂取量



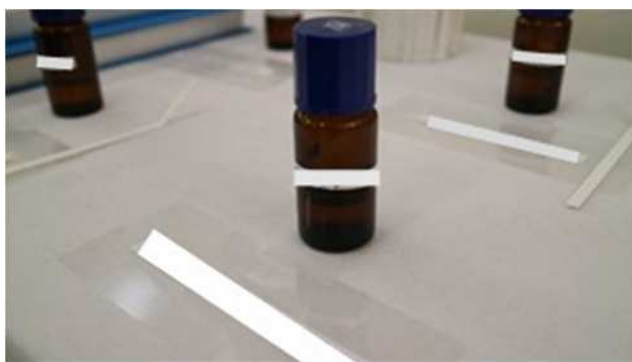
測定の様子



測定結果の用紙

4 野生いのししの豚熱対策の展示の様子

消費・安全局動物衛生課/農研機構畜産研究部門による展示では、野生いのししの効率的な誘引方法や豚熱経口ワクチンの効果的な散布技術について、総合香料メーカーの塩野香料株式会社らと共同研究開発中の誘引香料の選定や効果検証の様子を紹介していました。同社は、フレーバー食品香料（飲料水やカップラーメンなど）や香料の原料を製造しており、農業など他分野での新規利用にも積極的に取り組んでいます。野生いのししへの経口ワクチンの散布では、経口ワクチンの摂食率の更なる向上が課題となっています。特定の香料にはいのししが立ち止まったり、引き寄せられたり、採食行動を示すような効果が確認されており、将来的には捕獲のための誘引や経口ワクチンとの併用によって摂食率を高めることが期待されています。



野生イノシシへの香料を用いた誘引効果に関する展示の様子

愛知県産秋冬野菜京浜地区販売会議が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

秋冬野菜の本格出荷シーズンを前に、2022年11月7日（月）に「令和4年度愛知県産秋冬野菜京浜地区販売会議」（主催：JAあいち経済連東日本営業所）が開催されました。集合形式は3年ぶりとなり、東北及び関東地域の卸売会社23社などが参加し、出荷計画や産地情勢、生産資材高騰対策の報告などが行われました。

1 JAあいち経済連の販売取組

青果販売について、①生産、②販売、③物流、④消費喚起の多岐にわたり取組がなされます。重点的な取組では、①パッキングセンターの活用による生産基盤の拡大として、いちごやミニトマトなどでニーズに沿った対応が行われています。②出荷予約を活用した出荷情報の早期提供による有利販売の実践として、生産者から出される予約情報を取りまとめる必要があることから新しい予約システムが検討されています。③販売強化や出荷コスト低減につながる出荷規格の検討として、規格の簡素化などが検討されます。④量販店での試食が可能になりつつありますが、コロナ禍前に戻ったわけでない状況を踏まえ、食品企業とのコラボレーションによる販促企画の充実などが計画されています。

2 秋冬野菜生産出荷計画、産地動向

JAあいち経済連からキャベツ、はくさい、トマト、ミニトマト、ブロッコリーなど各品目の生産出荷計画が説明されたのに続き、JAひまわり、JA愛知みなみ、JA豊橋から品目ごとに各産地の細かな動向が報告されました。

キャベツは現在8玉中心の出荷が続いているものの干ばつ傾向により生育差があること、トマトは小玉傾向であることなどが話されました。

また、愛知県下で、にんじんはお盆頃の播種は発芽が悪かったものの11月中旬から出荷が始まり、1月上中旬がピークとなって3月上旬で出荷終了となること、たまねぎは生育順調で1月に極早生の出荷が始まることなどが報告されました。

令和4年度
秋冬期販売基本計画



写真 会議資料（表紙）

3 市場動向

キャベツ、はくさい、トマト、ミニトマト、洋菜、豆類の市場動向として、市場関係者から次のような報告がありました。

（1）キャベツ

千葉県産、茨城県産が中心で、神奈川県産の出荷が始まっています。現状、小玉傾

向で数量が減少しているため価格は上昇傾向です。また、東北産地で加工契約が増えており、12月まで出荷が予定されています。

(2) はくさい

長野県産がほぼ終了し、茨城県産が中心となっているものの、干ばつに加えて肥料高騰で追肥できず、小ぶりのため出荷が見合わせられていることから、今後増量する可能性があります。今年の販売情勢は昨年とは違うことが考えられ、チャンスロスしないように売っていかうと考えています。

(3) トマト

東北産、北海道産の切り上がりが早く、愛知県産、熊本県産が小玉のため数年ぶりの高値で推移しています。現状の価格が高すぎて販売に苦慮していますが、11月中下旬にどの等階級を売るか、どのような販売をするかがその後の販売に向けて重要です。

(4) ミニトマト

トマト同様に東北産、北海道産の切り上がりが早く、愛知県産、熊本県産の数量が伸び悩んでいるため現状は高値となっています。今後は両県のほか、宮崎県産が増量見込みですが、熊本県産より早く売るのが重要です。

(5) 洋菜

ブロッコリーは低温で150円/玉でしたが、全国の産地から入荷するようになり増量するため苦戦が予想されます。香川県の作付面積は頭打ちで、熊本県の八代地区もこれまで増反していましたが落ち着きました。アメリカ産、中国産が円安のため輸入されず、国産中心の販売となる見込みです。

非結球レタスは茨城県産中心で、スタートは順調でしたが降雨で数量を減らし、再び増量したため価格は軟調となっています。需要は伸びてきています。九州からの入荷が本格化し、入荷量は前年より増える見込みです。

(6) 豆類

スナップえんどうは鹿児島県産、長崎県産が中心ですが、一部の作型は台風により植え直しとなりました。植え直した後は生育順調で今後は増える見込みであり、価格は軟調傾向となっています。

スナップえんどうは数量維持が見込まれるものの、いんげん、さやえんどう、そらまめは全国的に減少傾向であり、売り場が作りづらい状況となっています。

愛知県産は顧客の要望が強く、鮮度に1番のメリットがあると考えています。さやえんどうは、なくてはならない品目でないものの時期により要望の出る品目であり、生産量の維持が望まれます。

4 生産資材高騰対策

J Aあいち経済連が主要品目を対象に生産費を算出し、約8%販売単価を上げないと生産者の収益が確保できないとしました。営農が継続できる価格の形成、需給バランスだけに左右されない価格形成のため、末端顧客と結びついた取引の拡大、契約取引の維持・拡大、規格の見直しと産地商品加工の実施に取り組まれます。

この会議を受け、本県産野菜がシーズンを通じて活発に販売されることが期待されます。

愛知生まれのカンキツ「夕焼け姫」のブランド化について



園芸農産課

夕焼け姫

「夕焼け姫」は、県農業総合試験場常緑果樹研究室（蒲郡市）が24年の歳月をかけて開発した愛知県初のオリジナル品種です。夕焼けのような鮮やかで目を引く赤橙色、甘味とほどよい酸味が特長です。

県では、2019年6月に「夕焼け姫」ブランド化チームを立ち上げ、高品質果実の生産やPR活動を行っています。

1 産地見学会

2022年11月10日（木）、販路開拓の可能性を探るため、また、「夕焼け姫」の魅力をメディアで広く発信するため、豊橋市のマルカワ園芸のほ場において、果実取扱い業者やメディアを対象とした産地見学会を開催しました。生産者や県職員から、「夕焼け姫」の特徴や白色のシートを地面に敷くマルチ栽培の手法について、説明を行いました。

参加者からは、品種の特性や栽培方法について多くの質問が飛び交いました。果実取扱い業者から「ぜひ販売したい」という声が聞かれ、「夕焼け姫」への期待の高さが伺えました。

また、参加したメディアから、産地見学会の様子や「夕焼け姫」の魅力が発信されました。

<URL : <https://note-mitaskuras.tohogas.co.jp/n/nc6069db62c40>>

2 試食PRイベント

2022年11月23日（水・祝）、「夕焼け姫」の認知度向上を図るため、名古屋市東谷山フルーツパークにおいて、東海市*の職員とともに「試食イベント」を開催しました。178名の方が試食し、多くの方が「夕焼け色」の外観の美しさや、甘さと酸味のバランスのよさに感嘆していました。

※ 東海市は、県内有数の苗木導入数を誇り、来年から出荷が始まる予定です。

3 知事への表敬訪問

2022年11月30日（水）、JAひまわり、東海市、生産者が愛知県公館を訪れ、「夕焼け姫」の魅力を大村愛知県知事にPRしました。高品質栽培な果実を生産・販売していることや、「夕焼け姫」を活用して食育にも取り組んでいることを紹介しました。

大村知事は「夕焼け姫」を試食し、「甘くて、とても美味しい。皆様と共に『夕焼け姫』のブランド化を推進していきたい。」と話しました。12月からの2か月間、知事自ら名刺に「夕焼け姫」を掲載し、PRします。

4 今後の取組

今年度は引き続き、販路開拓を見据えた、首都圏の高級フルーツ店へのPRを実施する予定です。今後も関係機関と連携し、皆様に愛されるブランド果実となるよう、PRをしてまいります。



夕焼け姫（上段）と
宮川早生（下段）



産地見学会の様子



イベントの様子



表敬訪問の様子

アルメーレ国際園芸博覧会におけるあいちの花のPRについて

園芸農産課

今回、オランダ王国アルメーレ市で開催された2022年アルメーレ国際園芸博覧会（以下、「アルメーレ国際園芸博」。）に、県は農業団体等と実行委員会を組織し、県内の花きを使ったPR出展を行うとともに、本県花きの輸出促進の足がかりとするため、博覧会協会が実施したコンテストに「グロリオサ」及び「かがり弁ギク」を出品しました。また、今回の出展に併せて、アルメーレ国際園芸博の会場やオランダ花き市場の視察も行いましたので、報告します。

1 アルメーレ国際園芸博について

アルメーレ国際園芸博は、国際園芸家協会及び国際博覧会事務局認定のA1クラスの国際園芸博覧会です。「Growing Green Cities（成長する緑の都市）」をテーマに、2022年4月14日から10月9日（179日間）まで開催され、33の国及び国際機関が参加しました。

2 愛知県の出展について

(1) 出展時期

2022年9月30日（金）から10月9日（日）まで
10日間

(2) 出展場所

アルメーレ国際園芸博会場 日本展示館メイン展示スタンド

(3) 出展者

アルメーレ国際園芸博覧会出展愛知実行委員会
（構成：県、JAグループ愛知、県花き連、豊明花き（株））

(4) 出展内容等

本県を代表する花の「キク」や海外の注目度が高い「グロリオサ」を用い、「ジブリパークのある愛知の秋」をテーマに展示しました（約35㎡）。

出展期間中、日本展示館には約2万7千人と多くの方に御来場いただきました。

10月8日（土）には、本県産のグロリオサ、かがり弁ギクを中心としたフラワーデモンストレーションを実施し、出席者を代表して、県（古本副知事）、農業団体の代表者（中央会長谷川会長、経済連鈴木会長）が本県花きをPRするとともに、来場者に本県



上：日本展示館、下：メイン展示



左：デモンストレーションの様子、右：花束プレゼント

産のグロリオサの花束をプレゼントしました。

また、出展期間中に行われたコンテストでは、グロリオサ「ZEN」が「エキゾチックな花部門」で金賞を受賞しました。



金賞グロリオサ「ZEN」と賞状

3 オランダ花き市場、生産現場の調査と商談会について

(1) 花き市場とキクの育種・生産現場

出展期間中に世界最大規模の花き市場（アールスメール花市場）、キクの育種・生産会社（デリフロール社、ビーケンカンブ社）

及びワーヘニンゲン大学を訪問し、最先端の花き取引、種苗や切り花の生産体制及び最先端研究について調査し、全世界を対象とした効率的な市場流通や最新技術を把握しました。

オランダ市場でのセリは、全世界と取引しているオンラインシステムにより、オンラインのみで実施されています。種苗会社では、DNAマーカーを用い、要望に応じて効率的に育種していました。調査内容は今後の本県花き流通、生産技術への活用が期待されます。

(2) 商談

グロリオサを中心に、卸売市場（ロイヤルフローラホーランド社）、輸出業者（オズ社）、花き仲介業者（ホーランドウェブ社）と輸出に向けた商談を行い、本県花き輸出の足がかりとなる関係を構築しました。

商談では、輸送料金を付加しても流通できる商材であるか、相当の物量を確保できるか、オランダ国内で生産されておらず、かつ需要のある花材であるか等、アドバイスをいただきました。今後、県内の花き関係者で、グロリオサなどの輸出推進に役立てられます。



アールスメール花市場



キク生産ほ場の様子
(デリフロール社)



商談の様子(ホーランドウェブ社)

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：れんこん）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	2, 3 0 8	1, 3 9 5 (60%)	4 0 0	4 2 1	愛知 (60%) 茨城 (38%) 熊本 (1%)
2022年見通し	2, 5 0 0	—	3 8 0	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知、茨城からの入荷が中心となる。前年作は作況が悪く、入荷量は少なかったが、本年作は天候順調で、前年並の入荷を見込む。食料品の値上げによる買い控えの影響もあり、価格は前年並か若干安い予想。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回るとなる見込み。</p>			<p>愛知では、新規就農はあるものの、高齢化により農家戸数が減少しているが、若い世代の経営規模拡大により、作付面積は維持されている。 産地には、農家戸数と安定した入荷量の維持をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：サニーレタス）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	9, 6 2 7	2 6 5 (3%)	2 5 8	2 5 6	長野 (46%) 茨城 (22%) 福岡 (12%)
2022年見通し	1 0, 0 0 0	—	2 9 5	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年の2021年は、2020年に比べて新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなり販売環境が回復した。その状況を受け、本年は各産地の作付面積が維持されている。 生育は、適度な降雨と気温推移によって良好であり今後も順調な出荷が見込まれる。 価格は過去2年と比較すると高値基調で推移しており、今後もこの流れが続くか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>			<p>品質の高い愛知県産を指定する顧客がしっかりとついている。 品質維持と安定供給が求められるため、精度の高い情報発信とあわせ、そうした要望に応える取組を続けてほしい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の12月の見通し

名古屋中央卸売市場

※グラフは白抜き箇所が見通しとなります。

11月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	35,140	268	247	246	315	北海道 26%
	2018年	36,855	204	193	195	215	愛知 25%
	2019年	36,094	205	201	199	207	茨城 13%
	2020年	38,925	183	167	169	205	長野 4%
	2021年	36,334	219	203	211	239	熊本 3%
	5カ年平均	36,670	216	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	36,500	205	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、愛知、茨城などが中心となる。全体的に作柄は良好で、平年並の入荷を見込む。燃油高騰の影響として、ハウス栽培品目では、設定温度を下げており、今後の天候次第で生育に影響が出る恐れ。入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
だいこん	2017年	1,780	155	134	151	191	千葉 45%
	2018年	2,130	51	53	48	57	愛知 20%
	2019年	1,883	69	74	70	71	静岡 14%
	2020年	2,116	66	55	60	86	鹿児島 8%
	2021年	1,883	64	57	61	79	神奈川 7%
	5カ年平均	1,958	79	73	76	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,800	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、愛知を中心に入荷する。千葉、神奈川は平年並の入荷見込み。昨年は、販売環境が厳しく出荷調整を行っていたが、今年は生産量の減少と台風の影響から、昨年ほどの相場低下はない予想。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
にんじん	2017年	1,997	135	134	118	163	愛知 82%
	2018年	1,781	118	122	120	110	北海道 7%
	2019年	2,090	120	118	124	115	岐阜 6%
	2020年	2,364	101	100	87	122	千葉 3%
	2021年	2,466	95	94	103	98	鹿児島 1%
	5カ年平均	2,139	113	112	109	121	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,100	115	115	110	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に一部北海道などからも入荷する。播種期の天候不順から、生育が若干遅れており、生産量は減る見込み。全国的に順調な生育、安定した入荷が予想され、価格は落ち着いてくる見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

11月30日 現在

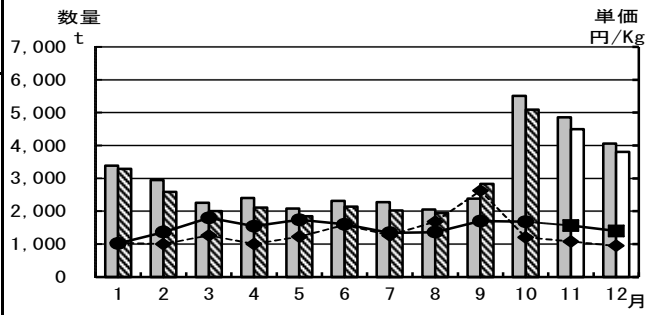
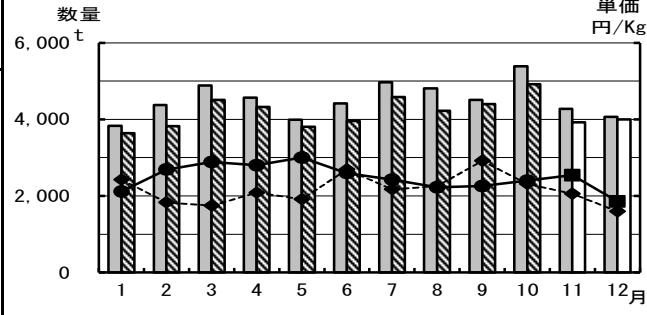
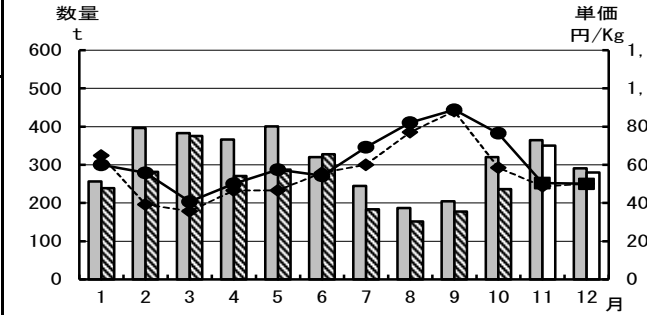
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	124,957	314	280	295	364	千葉 20%
	2018年	130,891	230	204	216	267	茨城 19%
	2019年	129,528	242	228	242	255	北海道 13%
	2020年	127,864	211	184	199	248	愛知 8%
	2021年	123,110	239	221	227	267	神奈川 4%
	5カ年平均	127,270	247	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	126,000	250	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉、茨城などの関東産地や北海道からの入荷が中心となる。前月は気温高の日が多く、一部品目で干ばつのため生育鈍化がみられたが下旬の降雨で回復し、生育順調。順調な出方を見込むが冷え込み次第。入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年をやや上回る見込み。							
だいこん	2017年	10,880	151	128	139	186	千葉 56%
	2018年	11,773	49	43	43	61	神奈川 35%
	2019年	11,809	67	66	63	72	徳島 4%
	2020年	10,717	63	46	50	89	茨城 2%
	2021年	10,778	60	46	52	77	静岡 1%
	5カ年平均	11,191	77	66	69	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	11,000	60	60	50	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉、神奈川からの入荷がほとんどを占める。主力の千葉は気温高により生育は前進傾向。神奈川でみられた肥大不足は降雨により解消を見込む。順調な出回りが続く見込まれる。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。							
にんじん	2017年	8,622	133	124	129	145	千葉 81%
	2018年	8,780	110	103	105	121	埼玉 8%
	2019年	8,080	141	144	136	144	茨城 3%
	2020年	8,988	115	108	107	130	香川 3%
	2021年	8,567	103	88	97	122	東京 1%
	5カ年平均	8,607	120	113	114	132	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	8,600	120	110	115	135	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉を中心に埼玉などからの入荷となる。千葉の一部で8月の大雨による発芽不良や欠株がみられたものの、その後は天候に恵まれ生育や肥大はおおむね順調。潤沢な入荷が続く見込み。入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

11月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうれんそう	2017年	3,725	138	125	132	156	茨城 69%
	2018年	4,304	48	46	49	51	愛知 21%
	2019年	3,803	66	69	63	67	兵庫 5%
	2020年	4,217	43	36	40	53	宮崎 3%
	2021年	4,061	47	47	45	51	岐阜 1%
	5ヵ年平均	4,022	67	63	64	74	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	3,800	70	75	65	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p>  <p>単価 円/kg</p>					
<p>茨城、愛知を中心に入荷する。各産地、作付面積は横ばい。11月は干ばつの影響もあり生育が若干遅れたが、12月には安定した入荷を見込む。また、外食の需要が増加する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
キャベツ	2017年	4,035	134	131	144	182	愛知 80%
	2018年	3,323	71	72	64	79	茨城 12%
	2019年	3,427	67	66	70	68	滋賀 2%
	2020年	4,029	65	53	62	80	静岡 1%
	2021年	4,070	56	55	53	63	三重 1%
	5ヵ年平均	3,777	79	76	79	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,000	65	60	65	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p>  <p>単価 円/kg</p>					
<p>愛知、茨城を中心に入荷する。生育期の降雨が少なく、生育にムラがあるため、小玉傾向が続く見込み。また、今後の天候次第で出荷に大きく影響するか。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
ほうれん	2017年	181	980	909	959	1,063	愛知 41%
	2018年	320	436	426	409	476	茨城 29%
	2019年	270	601	566	638	602	静岡 10%
	2020年	301	443	311	480	596	岐阜 10%
	2021年	291	500	498	487	520	群馬 4%
	5ヵ年平均	272	556	508	560	615	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	280	500	450	450	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p>  <p>単価 円/kg</p>					
<p>愛知を中心に茨城、静岡などから入荷する。低温が予想されるため、露地物は入荷が不安定となる恐れ。ハウス物はコストの問題があり、動きが読み切れない状況。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

11月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろく	2017年	16,244	105	95	98	120	茨城 92%
	2018年	15,439	38	36	39	37	群馬 5%
	2019年	15,879	54	57	52	54	和歌山 1%
	2020年	16,416	30	24	27	37	埼玉 1%
	2021年	15,358	34	36	32	33	
	5ヵ年平均	15,867	52	50	50	57	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	15,500	45	45	40	50	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城からの入荷がほとんどを占める。干ばつ傾向によりみられた生育鈍化は降雨で解消。一部では低温による生育遅れがみられるものの全体的には生育・肥大ともに順調。出回り量は十分と見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>ほうろく 数量・単価の月別推移 (単位: 数量 t, 単価 円/kg)</p>					
キヤベツ	2017年	13,077	155	128	145	191	愛知 55%
	2018年	14,117	72	68	64	84	千葉 27%
	2019年	13,998	70	70	74	67	神奈川 8%
	2020年	13,235	63	49	58	82	茨城 7%
	2021年	13,992	56	54	50	63	秋田 1%
	5ヵ年平均	13,684	82	73	78	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	13,500	65	65	60	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に千葉など関東産地からの入荷となる。愛知、神奈川は干ばつのため小玉傾向であったが降雨により解消し肥大順調。潤沢な入荷が続くと見込まれ、相場展開は厳しいか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>キヤベツ 数量・単価の月別推移 (単位: 数量 t, 単価 円/kg)</p>					
ほうろ	2017年	991	913	829	859	1,028	群馬 41%
	2018年	1,557	420	368	383	511	茨城 31%
	2019年	1,324	605	584	631	602	埼玉 8%
	2020年	1,607	423	314	385	581	千葉 8%
	2021年	1,485	457	455	423	494	栃木 7%
	5ヵ年平均	1,393	534	481	507	614	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,500	460	440	420	520	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城など関東近郊産地からの入荷が中心となる。主力群馬は前年の病害多発の反省から防除を徹底し、順調な入荷を見込む。茨城はこまつなからの転作に加え、前進傾向により量を増やす見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					
		<p>ほうろ 数量・単価の月別推移 (単位: 数量 t, 単価 円/kg)</p>					

名古屋市中央卸売市場

11月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	1,182	448	443	426	481	長野 21%
	2018年	1,181	376	361	362	406	大分 16%
	2019年	1,248	378	389	368	382	静岡 12%
	2020年	1,165	382	330	357	450	群馬 11%
	2021年	1,240	361	340	336	402	鳥取 7%
5ヵ年平均	1,203	389	373	369	423	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し	1,100	400	380	400	420		
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野、大分を中心に入荷する。白ねぎは、各産地、全体的に細めで数量伸びず、数量は少なめの傾向。大分は、夏場の天候から上旬は少なく、中旬から増える見込み。愛知は、越津ねぎが出揃う予想。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						
し	2017年	1,288	554	462	486	678	兵庫 34%
	2018年	1,845	170	148	141	218	愛知 17%
	2019年	1,800	219	208	237	217	静岡 16%
	2020年	1,918	151	114	151	193	熊本 9%
	2021年	1,785	194	141	184	258	茨城 8%
5ヵ年平均	1,727	238	198	224	289	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し	1,750	200	150	200	250		
し	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>兵庫を中心に愛知、静岡などから入荷する。12月上旬で各産地出揃い、中旬でピークとなり、下旬はやや少なめの見込み。2L、L中心の入荷を見込む。入荷量は前年並、価格は安かった前年をやや上回る見込み。</p>						
きゅうり	2017年	1,029	492	475	492	507	愛知 53%
	2018年	1,027	492	342	514	637	宮崎 17%
	2019年	997	490	301	366	331	鹿児島 15%
	2020年	1,163	335	286	339	382	高知 14%
	2021年	1,143	344	322	322	390	長野 1%
5ヵ年平均	1,072	426	343	403	447	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し	1,140	350	340	350	360		
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知を中心に宮崎などの西南暖地から入荷する。各産地、病害虫被害は少なく、作柄良好。重油、資材、輸送等の値上げから、単価は昨年より高い予想。需要期の年末に向け、相場は高くなる見込み。入荷量は前年並で、価格は安値だった前年並の見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

11月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	6,041	391	414	359	403	茨城 20%
	2018年	6,484	324	313	310	343	千葉 20%
	2019年	6,224	348	371	331	343	埼玉 15%
	2020年	5,947	356	320	316	421	群馬 11%
	2021年	6,086	299	275	270	342	栃木 11%
	5ヵ年平均 2022年見通し	6,156 6,300	343 310	338 290	317 280	370 360	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を始め千葉などの関東近郊産地からの入荷となる。各産地とも天候に恵まれ生育、肥大ともに順調。一部産地では前進傾向。順調な入荷が続く相場は軟調も年末需要により下旬は価格上昇となるか。入荷量、価格ともに前年をやや上回る見込み。</p>					
しめじ	2017年	5,186	547	469	482	667	静岡 33%
	2018年	8,449	156	138	121	210	茨城 15%
	2019年	7,614	223	213	244	214	兵庫 14%
	2020年	6,941	144	104	142	180	長崎 11%
	2021年	6,595	195	139	182	257	香川 9%
	5ヵ年平均 2022年見通し	6,957 6,400	234 200	197 130	217 200	282 270	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡を中心に茨城、兵庫、長崎などからの入荷となる。各産地とも生育はおおむね順調。香川は作付面積減に加え、干ばつにより生育遅延気味。総じて安定した入荷が見込まれ、全体量に不足はないか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
きゅうり	2017年	4,228	523	497	529	541	宮崎 44%
	2018年	3,752	556	344	604	788	千葉 16%
	2019年	3,887	546	481	538	614	高知 12%
	2020年	4,505	346	298	349	581	埼玉 11%
	2021年	4,532	334	307	306	397	群馬 10%
	5ヵ年平均 2022年見通し	4,181 4,200	454 370	382 300	457 360	576 450	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎を中心に千葉、高知などの西南暖地と関東近郊産地からの入荷となる。各産地とも生育はおおむね順調。宮崎は中旬以降の入荷は落ちつくか。各産地とも入荷は安定して続くと見込まれる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

11月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
なた	2017年	257	564	542	591	561	熊本 55%
	2018年	398	402	398	408	407	愛知 39%
	2019年	345	448	448	458	446	高知 7%
	2020年	383	398	398	401	399	
	2021年	347	414	430	431	411	
	5ヵ年平均	346	437	436	448	437	
	2022年見通し	340	420	420	420	420	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、愛知を中心に入荷する。両産地、生育は順調であるが、燃料費が上がっているため、ハウスの設定温度を低くしており、今後の気温次第では、入荷量が減少する恐れ。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。						
トマト	2017年	868	487	461	465	532	熊本 44%
	2018年	1,034	328	335	330	323	愛知 24%
	2019年	956	331	389	321	290	三重 19%
	2020年	1,006	287	276	289	298	岐阜 11%
	2021年	845	381	407	363	374	大分 1%
	5ヵ年平均	942	359	369	350	359	
	2022年見通し	850	380	400	390	360	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、愛知を中心に入荷する。作付面積について、熊本は微減、その他の各産地はほぼ前年並で、入荷量は前年並を見込む。年末にかけて増量見込みで、年末または年明けにピークとなるか。 入荷量、価格はともに前年並の見込み。						
ミニトマト	2017年	360	907	864	932	921	熊本 67%
	2018年	490	585	549	572	638	愛知 28%
	2019年	464	559	670	516	507	宮崎 3%
	2020年	531	456	445	449	477	和歌山 1%
	2021年	509	585	557	579	621	
	5ヵ年平均	471	600	599	590	616	
	2022年見通し	520	520	520	520	520	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、愛知を中心に入荷する。年内ピークに入り増量傾向で、順調な入荷を見込む。出荷が出揃えば、クリスマス商戦時以外は、平年より単価安となる予想。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

11月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	1,496	656	703	756	559	高知 63%
	2018年	1,817	449	444	467	439	福岡 17%
	2019年	1,759	516	534	535	479	熊本 12%
	2020年	1,888	462	451	477	461	佐賀 2%
	2021年	1,853	443	461	446	420	栃木 2%
	5カ年平均	1,763	499	511	527	468	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,750	460	450	470	460	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知を中心に福岡、熊本からの入荷となる。高知は生育順調も、着花・着果数が少なく大きな増量はない見込み。福岡は台風の影響による定植遅れがあるも生育順調。反面、着花数は少なく入荷は少なめか。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p>					
ト マ ト	2017年	4,446	541	513	519	588	熊本 40%
	2018年	5,254	377	373	381	377	栃木 18%
	2019年	5,051	381	432	376	336	愛知 17%
	2020年	4,830	342	329	346	351	千葉 6%
	2021年	4,478	452	473	425	457	静岡 5%
	5カ年平均	4,812	415	421	407	417	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,700	455	430	455	480	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本を中心に栃木、愛知などからの入荷となる。前年少なかった熊本は生育順調で潤沢な入荷を見込む。栃木や愛知の小玉傾向は回復を見込む。全体量は十分と見込まれるも冷え込み次第で量を減らすか。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	2017年	1,573	899	840	901	942	熊本 40%
	2018年	1,850	594	549	598	635	愛知 20%
	2019年	2,104	554	667	532	469	千葉 11%
	2020年	1,949	453	429	444	486	宮崎 10%
	2021年	1,862	627	589	632	662	静岡 8%
	5カ年平均	1,868	614	608	609	624	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,800	730	710	730	750	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本を中心に、愛知、千葉、宮崎などからの入荷となる。各産地とも生育は順調で着果も良好。安定した入荷が続く見込み。懸念は冷え込みで、重油高のため加温控えがなされると数量を減らすか。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

11月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	369	611	525	642	619	鹿児島 56%
	2018年	424	359	298	369	476	宮崎 31%
	2019年	393	447	377	443	561	高知 12%
	2020年	450	322	327	325	369	茨城 3%
	2021年	433	344	349	368	391	
	5ヵ年平均	414	409	370	422	477	
	2022年見通し	400	400	350	400	450	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島、宮崎を中心に入荷する。各産地、生育順調。上旬がピークとなり、12月を通して安定した入荷を見込む。消費動向は、需要期ではないため、荷動きは悪い予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
ばれいしよ	2017年	2,633	114	113	115	北海道 69%	
	2018年	2,773	116	122	112	長崎 31%	
	2019年	3,010	85	88	86		
	2020年	2,963	141	138	140		
	2021年	2,630	219	220	220		
	5ヵ年平均	2,802	134	135	133	132	
	2022年見通し	2,800	120	120	120	120	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、長崎からの入荷となる。北海道は貯蔵産地からの計画出荷を維持するが、残量は各地でバラツキあり。長崎は一部干ばつの影響はあるが、生育順調で、12月から計画出荷の予定。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							
たまねぎ	2017年	7,658	82	84	82	80	北海道 98%
	2018年	8,010	98	102	109	89	
	2019年	0	72	76	75	71	
	2020年	7,993	71	74	73	70	
	2021年	6,555	150	150	155	147	
	5ヵ年平均	7,592	93	95	97	90	
	2022年見通し	7,500	110	110	110	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
ほぼ全量を北海道から入荷する。北海道は、貯蔵品から出荷となり、安定した入荷を見込む。品種は中生に切り替わり、L大中心の玉流れとなる予想。道外向けの出荷計画は43,500t（前年比114%）。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

11月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	1,471	625	543	662	679	宮崎 45%
	2018年	1,579	394	317	382	519	茨城 27%
	2019年	1,510	484	410	457	614	高知 14%
	2020年	1,793	364	322	362	411	鹿児島 13%
	2021年	1,765	356	337	363	368	
	5カ年平均	1,624	438	381	438	509	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,650	430	400	420	470	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎、茨城、高知、鹿児島からの入荷となる。西南暖地の各産地は、一部で台風の影響による生育遅れを引きずるも生育おおむね順調。茨城は低温による生育遅れがみられる。全体量に不足はない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
白菜	2017年	8,146	112	112	111	113	北海道 85%
	2018年	7,310	118	120	117	118	長崎 14%
	2019年	8,855	87	90	86	86	
	2020年	8,572	142	138	143	144	
	2021年	6,877	214	211	212	218	
	5カ年平均	7,952	132	131	131	133	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7,800	135	120	135	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に長崎からの入荷でほとんどを占める。前年不作だった主力の北海道は、作柄は悪くないものの歩留まりや肥大が良くなく、入荷量は平年より少ないか。長崎は小玉傾向も平年量はある見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
タマネギ	2017年	10,884	93	90	94	96	北海道 93%
	2018年	9,737	121	120	120	126	中国 6%
	2019年	9,495	78	77	78	76	佐賀 1%
	2020年	9,929	76	75	76	77	
	2021年	8,942	182	184	182	181	
	5カ年平均	9,797	108	108	108	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	9,600	115	110	115	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。収穫は終了し貯蔵からの出荷となる。生育は順調で肥大も良好。L大サイズが出回りの中心と見込まれる。不作により少なかった前年から一転、潤沢な出回りを見込む。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

11月17日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	9,718	429	363	442	475	静岡 19%
	2018年	9,826	392	342	396	415	愛知 14%
	2019年	10,487	380	319	402	411	フィリピン 13%
	2020年	10,272	383	343	414	409	和歌山 11%
	2021年	9,091	429	381	462	459	青森 7%
	5ヵ年平均	9,879	402	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	10,000	380	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、いちご、りんごなどが主な品目となる。りんごは輸出中心の価格形成により価格の締め付けがきつく、販売が苦戦される予想。柿は、中旬以降に冷蔵に切り替わり、値上がりする見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
みかん	2017年	4,332	354	326	354	393	静岡 38%
	2018年	5,048	257	236	267	275	愛知 23%
	2019年	4,885	270	245	271	305	和歌山 22%
	2020年	5,049	236	237	226	246	熊本 5%
	2021年	4,518	272	257	272	291	愛媛 4%
	5ヵ年平均	4,766	276	258	276	299	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,700	250	230	270	270	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、愛知を中心に和歌山などから入荷する。早生のスタートが昨年より遅れ、上旬は増量を見込む。静岡、和歌山は、早生以降、数量が多い見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
いちご	2017年	419	2,285	1,667	2,370	2,637	愛知 61%
	2018年	505	2,054	1,609	2,280	2,356	熊本 26%
	2019年	401	2,169	1,695	2,437	2,414	鹿児島 5%
	2020年	536	1,979	1,820	2,015	2,067	三重 3%
	2021年	386	2,374	2,039	2,315	2,695	佐賀 2%
	5ヵ年平均	449	2,155	1,759	2,268	2,408	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	500	2,000	1,800	2,100	2,000	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に、熊本などから入荷する。各産地遅れ気味も、生育は順調。愛知は上旬にピークとなり、年内は数量がある予想。熊本は、年内安定した入荷を見込む。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

11月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	51,507	457	395	471	494	愛媛 29%
	2018年	51,593	446	404	457	472	和歌山 11%
	2019年	52,865	418	371	436	442	長崎 11%
	2020年	52,001	429	406	453	443	熊本 8%
	2021年	48,026	461	419	477	480	青森 8%
	5カ年平均	51,198	442	—	—	—	
実計	2022年見通し	47,500	470	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し							
みかんを中心にりんご、いちごなどが入荷する。りんごは生育は順調で平年並の入荷となる見込み。柿は冷蔵物へ切り替わる。入荷量は前年より多くなり、単価は平年並か安くなる見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。							
みかん	2017年	30,959	342	312	343	361	愛媛 41%
	2018年	32,507	304	293	310	307	長崎 17%
	2019年	32,824	284	275	284	290	和歌山 17%
	2020年	32,449	280	277	282	279	熊本 10%
	2021年	30,806	291	281	296	294	静岡 8%
	5カ年平均	31,909	300	287	303	306	
実計	2022年見通し	31,000	292	280	300	295	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛媛、長崎、和歌山などから入荷する。中旬には早生から普通温州に切り替わる見込み。みかん全体の生育は順調で果実肥大も良くM中心の入荷を見込む。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。							
いちご	2017年	2,330	2,215	1,743	2,173	2,593	栃木 52%
	2018年	2,873	2,106	1,639	2,143	2,408	福岡 13%
	2019年	2,178	2,252	1,739	2,301	2,538	茨城 11%
	2020年	2,755	2,077	1,954	2,040	2,164	静岡 10%
	2021年	2,300	2,315	1,887	2,270	2,661	佐賀 4%
	5カ年平均	2,487	2,184	1,792	2,177	2,458	
実計	2022年見通し	2,400	2,300	1,900	2,300	2,700	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し							
栃木、福岡などから入荷する。猛暑の影響により生育はやや遅れているが、今後回復していく見込み。年末年始には各品種ともにピークを迎え潤沢な入荷量となる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。							

切花・鉢花の12月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 12月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪ぎ	実績	2017年	2,872	59	
		2018年	2,897	58	
		2019年	2,400	60	
		2020年	2,348	55	
		2021年	1,648	55	
	5ヵ年平均	2,433	58		
2022年見通し	1,800	58			
概要	<p>愛知、沖縄から入荷。上旬は入荷量は少ない見込みだが、一般需要の動きもない時期で葬儀の動きで相場は大きく変動しそう。中旬以降は年末需要に向けて全体的に動きもよくなると見込まれる。</p>				
小ぎ	実績	2017年	2,381	30	
		2018年	3,015	30	
		2019年	1,974	35	
		2020年	2,079	33	
		2021年	1,726	31	
	5ヵ年平均	2,235	32		
2022年見通し	1,800	32			
概要	<p>沖縄中心の入荷。今期は大きな台風被害はないが、平均気温が高く、病虫害の発生が出てきている。年末に向けて入荷量も増加して、ピークとしては21-23日販売の見込みで26日以降は減少する。</p>				
カーネーション	実績	2017年	1,258	42	
		2018年	1,372	47	
		2019年	1,469	39	
		2020年	1,427	40	
		2021年	976	35	
	5ヵ年平均	1,300	41		
2022年見通し	1,000	40			
概要	<p>長野県も終盤に向かい、愛知中心の入荷となってくる。輸入物は為替の影響が大きく、昨年よりもかなりの値上げとなっており、入荷もそれほど膨らむことはない見込み。</p>				
かすみ草	実績	2017年	182	91	
		2018年	169	112	
		2019年	206	66	
		2020年	170	89	
		2021年	131	70	
	5ヵ年平均	172	86		
2022年見通し	140	75			
概要	<p>和歌山、高知、熊本からの入荷。11月中旬の気温高により前進気味の入荷となっている。12月上旬から入荷は多くない予想だが、年末に極端な減少はない見込み。</p>				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	2017年	359	199	
		2018年	385	198	
		2019年	353	213	
		2020年	346	193	
		2021年	229	189	
	5カ年平均		334	199	
	2022年見通し		250	190	
概要	高知、宮崎、埼玉、新潟、鹿児島から入荷する。オリエンタルは11月中下旬の気温高によりやや前進傾向。今後の気象経過によるが、年末の需要期よりも早くピークを迎える可能性がある。				
洋 ら ん	実績	2017年	643	94	
		2018年	624	104	
		2019年	568	92	
		2020年	546	105	
		2021年	301	106	
	5カ年平均		536	99	
	2022年見通し		350	110	
概要	高知、鹿児島、静岡、愛知の国産品や輸入品が入荷する。カトリアは気温高により上旬から潤沢な入荷見込み、コショウランは輸入品比率が上がり、物流面の制約から大幅な増加は見込めない。オンシジウムは2割減、デンファレは昨年並み、シンビジウムは国産品が増えてくるが、昨年並の入荷には届かない。				
ば ら	実績	2017年	794	74	
		2018年	793	78	
		2019年	680	76	
		2020年	595	94	
		2021年	497	87	
	5カ年平均		672	81	
	2022年見通し		480	90	
概要	愛知、岐阜、三重中心に入荷。クリスマスはやや品薄が予想される。輸入物も回復の目途はたっており、平年の6割ほどの見込み。				
枝 も の	実績	2017年	4,659	52	
		2018年	4,454	56	
		2019年	4,492	60	
		2020年	2,952	56	
		2021年	3,873	57	
	5カ年平均		4,086	56	
	2022年見通し		3,200	60	
概要	茨城、兵庫、愛媛、和歌山、静岡及び長野から年末商材の入荷が始まる。促成花木は高齢化、引退が進み、運賃、段ボールなど資材高もあり、厳しい出荷が予想される。特に燃油などの高騰からボケの注文単価は上がっている。輸入物も不安定な入荷で品目によっては品薄が見込まれる。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	2017年	8,469	978	
		2018年	9,637	1,079	
		2019年	10,380	944	
		2020年	10,076	1,098	
		2021年	11,044	1,186	
	5カ年平均		9,921	1,061	
	2022年見通し		11,000	1,182	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。原木類が減少傾向にあるため、各サイズで品薄になる見込み。特に7、8号は、かなりの品薄が予想される。 前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（70.4%）、2位鹿児島（14.6%）、3位三重（7.3%）となっている。</p>				
シヤコバサ	実績	2017年	11,926	397	
		2018年	9,200	511	
		2019年	12,271	443	
		2020年	8,436	469	
		2021年	10,193	485	
	5カ年平均		10,405	457	
	2022年見通し		10,000	480	
概要	<p>入荷量は前年並か。5号未満の小鉢中心の入荷になり、6号以上はかなり品薄になる。前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（71.9%）、2位埼玉（26.8%）、3位静岡（1.0%）となっている。</p>				
シクラメン	実績	2017年	581,607	383	
		2018年	537,326	402	
		2019年	540,423	415	
		2020年	427,062	448	
		2021年	422,530	459	
	5カ年平均		501,790	418	
	2022年見通し		423,500	480	
概要	<p>入荷量は前年並か。ガーデンシクラメンが出荷の終盤となり、5号・6号鉢中心に12月上旬から中旬にかけて出荷のピークを迎える。前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（31.2%）、2位群馬（18.0%）、3位長野（9.5%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	2017年	105,449	2,289	
		2018年	91,778	2,206	
		2019年	86,602	2,262	
		2020年	83,647	2,267	
		2021年	71,306	2,594	
	5ヵ年平均		87,756	2,312	
	2022年見通し		72,000	2,389	
概要	<p>入荷量は前年より微増か。年々生産量が減少している現状だが、昨年は開花が進んでおり11月出荷が多かった。その分12月に出る予定である。価格面では、11月と同じく中値～安値で推移する見込み。</p> <p>前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（59.8%）、2位三重（7.5%）、3位徳島（7.0%）となっている。</p>				
カランコエ	実績	2017年	29,871	207	
		2018年	23,047	194	
		2019年	25,819	189	
		2020年	17,678	208	
		2021年	17,762	244	
	5ヵ年平均		22,835	206	
	2022年見通し		18,000	256	
概要	<p>入荷量は前年並か。4号鉢を中心に堅調に推移すると思われる。中旬以降は年末年始売りの需要が見込まれる為、4号・6号の定番商品は品薄となる。また、八重咲きは注文比率が高い為に特に引き合いが強くなる見込み。</p> <p>前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（53.0%）、2位埼玉（39.8%）、3位愛知（5.3%）となっている。</p>				
パンジー	実績	2017年	489,381	50	
		2018年	552,273	38	
		2019年	419,772	39	
		2020年	465,569	44	
		2021年	413,893	40	
	5ヵ年平均		468,178	42	
	2022年見通し		380,000	46	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。資材不足から、慣れない資材使用や品種選択で生産に影響の見込み。気候状況からの生育遅れ、開花待ちなども考えられる。価格は平年並か若干上げ傾向の見込み。</p> <p>前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（32.9%）、2位奈良（17.4%）、3位三重（13.6%）となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.594
2022年12月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434